

# エコツーリズムと灯台

## — 灯台の社会的価値の把握手法の開発 —

キーワード エコツーリズム, 灯台, 社会的価値, 利用, 漁村文化, 観音埼灯台

### はじめに

#### ① 研究背景と目的

灯台は海上航海の安全を支える重要なインフラである。GPSや自動航行技術の発展により、徐々にその役割は変化しているが、その一方で海辺の風景を構成する重要な要素として、あるいは旅の目的地やシンボルとして人々の記憶に根を下ろす存在でもある。地域の宝として、地元で大切にされている灯台も少なくない。例えば岩手県宮古市の鮎ヶ崎（とどがさき）灯台は、本州最東端の岬にある灯台として観光プロモーションに活用されている他、2011(平成23)年に発生した東日本大震災以後に設定された長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」のルート上にあることから、ハイキングコースの拠点ともなっている。実利的な機能を背負う人工物である灯台が、設置された場所性や地域性等から、本来の役割とは異なる意味や価値を付加され、地域においてかけがえのない存在となっているのである。本研究は、このような、灯台がもつ社会的役割を明らかにすることを目的としている。特に、地域の宝を掘り起こし、観光に活かし、経済的・社会的還元を地域にもたらす観光である「エコツーリズム」の観点から、灯台の社会的価値をとらえてみたいと考えている。本稿は、その研究に向けた調査の視点をまとめたものである。

灯台に関する研究は、主として歴史、工学、建築、文化遺産等の視点から進められているが、本研究のような視点に基づく既往研究はほとんどない。

#### ② 研究対象と研究手法

研究対象は日本国内の灯台とする。海上保安庁によると灯台とは航路標識のことを指す。航路標識も光波標識、電波標識、その他に分かれるが、ここで扱う灯台は光波標識の1つである(表1)。

| 航路標識 | 光波標識                 | 電波標識                      | その他                     |
|------|----------------------|---------------------------|-------------------------|
|      | 灯台など光、形、色を利用したもの     | 電波を利用したもの                 | 電光掲示板、無線等により船に情報を知らせるもの |
|      | 灯台、灯標、灯浮標、照射灯、導灯、指向灯 | 無線方位信号所、ロランC、ディファレンシャルGPS | 船舶通航信号所、潮流信号所           |

表1. 航路標識の分類

| No. | 灯台名         | 所在自治体    |
|-----|-------------|----------|
| 1   | 陸中黒崎灯台      | 岩手県普代村   |
| 2   | 犬吠埼灯台       | 千葉県銚子市   |
| 3   | 城ヶ島灯台       | 神奈川県三浦市  |
| 4   | 安房埼(あわさき)灯台 | 神奈川県三浦市  |
| 5   | 劔埼灯台        | 神奈川県三浦市  |
| 6   | 諸磯埼灯台       | 神奈川県三浦市  |
| 7   | 観音埼灯台       | 神奈川県横須賀市 |
| 8   | 江の島展望灯台     | 神奈川県藤沢市  |
| 9   | 八丈島灯台       | 東京都八丈町   |
| 10  | 爪木埼灯台       | 静岡県下田市   |
| 11  | 稲取岬灯台       | 静岡県東伊豆町  |
| 12  | 伊良湖岬灯台      | 愛知県田原市   |
| 13  | 蒲生田岬灯台      | 徳島県阿南市   |
| 14  | 日向青島灯台      | 宮崎県宮崎市   |
| 15  | 戸崎鼻灯台       | 宮崎県宮崎市   |

表2. 調査対象灯台(2024年度)

| 大項目     | 中項目        | 小項目  |
|---------|------------|--|
| 基本情報    | 灯台に関する事項   | 灯台名、所在地、タイプ、初点灯日、高さ、設計・施工・管理者、現在稼働中か、文化財指定など |
|         | 立地に関する事項   | アクセス、標高、地盤、地理的特徴、地質、植生、生態系                   |
|         | 公開に関する事項   | 解説板、灯台資料館、見学可否                               |
| 人とのつながり | 周辺の施設・制度など | 地域指定、博物館・資料館など、トイレ、観光施設                      |
|         | 人々による利用    | 釣り、漁業、自然観察、観光資源としての扱い、愛好会など、その他              |
| その他     |            | 文献、気づいたことなど                                  |

表3. 調査の視点

| 利用のあり方         | 該当例  |
|----------------|--|
| 釣り場スポット        | 陸中黒崎灯台、安房埼灯台、八丈島灯台、蒲生田岬灯台、爪木埼灯台、稲取岬灯台、伊良湖岬灯台 |
| 漁場の形成          | 陸中黒崎灯台、江の島展望灯台、犬吠埼灯台                         |
| サーフスポット        | 伊良湖岬灯台                                       |
| 海水浴場           | 日向青島灯台、戸崎鼻灯台                                 |
| 景観地・展望地        | 劔埼灯台、諸磯埼灯台、蒲生田灯台、犬吠埼灯台                       |
| 園地が隣接          | 城ヶ島灯台、観音埼灯台、江の島展望灯台                          |
| 飲食店や土産物店が周辺に集積 | 城ヶ島灯台、稲取岬灯台、江の島展望灯台                          |
| ホテルが隣接         | 戸崎鼻灯台、犬吠埼灯台                                  |
| 博物館が隣接         | 観音埼灯台  |
| ジオパーク          | 陸中黒崎灯台、犬吠埼灯台、爪木埼灯台、稲取岬灯台                     |
| 国立公園           | 陸中黒崎灯台、犬吠埼灯台、爪木埼灯台、伊良湖岬灯台                    |

表5. 利用のあり方と該当灯台例

調査手法は文献調査、現地調査、ヒアリング等による事例調査とする。調査対象として、地域との関わりが深く、一定の社会的価値が認められていると考えられる表2の灯台を選定した。

調査に用いたフォーマットは表4の通りである。調査の視点は表3のように分類した。

### 調査結果

表4のフォーマットへの記載項目のうち「人々とのつながり」(項目19~28)の結果をもとに、灯台の活用例を整理したものが表5である。灯台は漁業にとって重要な場であることが窺えた(八丈島灯

| 灯台のある海辺地域生態学調査フォーマットVer.1 |            |
|---------------------------|------------|
| 調査日時 (y/m/d/t)            | 月齢(潮)      |
| 天候                        | 記録者        |
| 基本情報                      |            |
| 灯台に関する事項                  |            |
| 1                         | 灯台名        |
| 2                         | 所在地        |
| 3                         | タイプ        |
| 4                         | 初点灯日、改修など  |
| 5                         | 高さ         |
| 6                         | 設計・施工・管理   |
| 7                         | 現在稼働中か     |
| 8                         | 文化財指定など    |
| 灯台の立地環境に関する事項             |            |
| 9                         | アクセス       |
| 10                        | 標高         |
| 11                        | 地盤         |
| 12                        | 地理的特徴      |
| 13                        | 地質         |
| 14                        | 植生         |
| 15                        | 生態系        |
| 灯台の公開に関する事項               |            |
| 16                        | 解説板        |
| 17                        | 灯台資料館      |
| 18                        | 見学         |
| 灯台の写真等                    |            |
| 人々とのつながり                  |            |
| 灯台周辺域の施設、制度等              |            |
| 19                        | 地域指定       |
| 20                        | 博物館、資料館など  |
| 21                        | トイレ        |
| 22                        | 観光施設       |
| 人々による利用                   |            |
| 23                        | 釣り         |
| 24                        | 周辺海域での漁業   |
| 25                        | 自然観察       |
| 26                        | 観光資源としての扱い |
| 27                        | 愛好会など      |
| 28                        | その他        |
| 文献                        |            |
| 気づいたこと、特筆すべきこと            |            |

表4. 調査フォーマット

台、諸磯埼灯台など)ほか、宿泊施設や飲食店が周囲に設けられたり、フォトコンテストなどを実施して観光資源として積極的に活用されたりする事例も見られた(観音埼灯台、江ノ島灯台など)。

### 考察

#### ① 海と陸の結節点としての灯台

灯台は漁業や個人の釣りスポットとなるほか、展望地として利用されている例が見られた。古くから漁業が営まれている場合は、大漁祈願の信仰や芸能、祭りの舞台になることもある。またアクセスルートが確保されていることから、観光拠点や自然

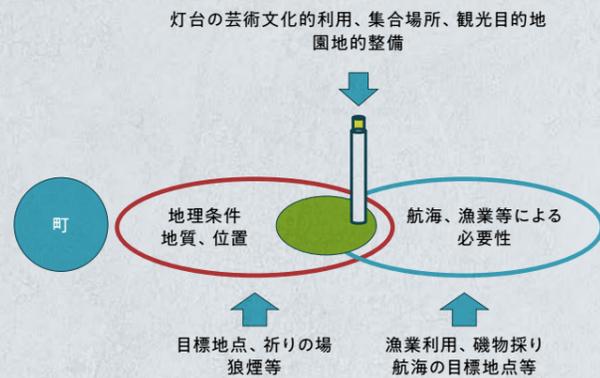


図1. 海と陸の結節点としての灯台

観察などの場としての利用もしやすく、公園や飲食店、博物館、ホテルなどが集積する場となる例もある。神奈川県横須賀市の観音崎灯台は、レオンス・ヴェルニーによって設計され、1869（明治2）年に初点灯した日本における西洋式灯台の草分けである。灯台周辺の海域は豊かな漁場であるほか、灯台に隣接して観音崎自然博物館や横須賀美術館が立地している。観音崎自然博物館は民営であり、ユニークな展示や活動で根強い人気がある。館長をはじめとするスタッフが相模湾の生物を定点観測している拠点であり（モリナヲ弥，2023）、頻繁に開催されるフィールドワークはあっという間に予約で埋まる。確実に地域の人々の自然との触れ合いの場となっている。

このように灯台が人々に親しまれる背景には、灯台が市街地から切り離された「岬」の先端に建っていることが挙げられる。岬は海に張り出した高台であるため、海域からの視認性が高く、陸域からは海への入口としての位置付けを持つ。結果として海域・陸域の結節点としての役割を担っている（図1）。

## ②灯台の社会的価値を把握する視点

以上の事例調査の分析から、灯台の社会的価値として以下の4つの切り口が考えられる（図2）。ここでいう社会的価値とは、灯台本来の航海標識という機能を除く、人々と灯台の関わりを指す。

### ①漁・生業に関わる価値

- ・漁法、信仰、祭り、漁民文化など灯台をシンボルとする海の文化

### ②自然環境・生態系に関わる価値

- ・灯台を拠点に把握された自然環境や生態系、

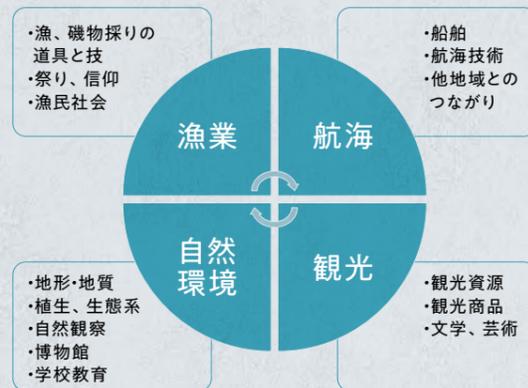


図2. 灯台が持つ社会的価値把握の視点

それらと触れあう人々の活動

### ③観光・交流が生む価値

- ・灯台が持つ資源性、灯台周辺に集積した観光地域、灯台を活用した観光文化
- ・文学、絵画、音楽、パフォーマンスなど灯台を題材・舞台とする芸術文化

### ④航海から生まれた価値

- ・灯台が支えるグローバルな他地域とのつながり、航海技術など

## 結論と今後の課題

本稿は、灯台が有する社会的価値の把握に向けた研究の準備段階として、調査の視点を整理し、いくつかの灯台についてはデータベースを作成し、分析を試みた。研究は緒についたばかりであり、今後、地元自治体や観光協会、歴史家、漁家、かつての灯台守などへのヒアリング調査を行い、社会的価値の実態をさらに把握したいと考えている。調査対象を広げていくためには、初点灯以降の歴史が長いこと、上記の視点において特に優れていると想定されること、離島や都市圏近郊などの地理的特徴を有すること等を考慮して検索する必要がある。

その上でエコツーリズムの視点から評価を加える必要がある。具体的には、

- ・地域住民の主体的な関わり（利用、ガイド、経済循環への関わりなど）
- ・活動プログラムの内容、実践状況
- ・環境教育としての地域への効果
- ・環境負荷や自然、生態系理解への貢献

等が考えられる。

| 基本情報   |   |
|--|---|
| 灯台のある海辺地域生態学調査フォーマットVer.1  |   |
| 調査日時 (y/m/d/t)   | 2024/08/19/1330   |
| 月齢(潮)  | 大潮  |
| 天候   | 晴れ  |
| 記録者  | 小坂  |
| 灯台に関する事項   |   |
| 1 灯台名  | 観音崎灯台   |
| 2 所在地  | 横須賀市  |
| 3 タイプ  |   |
| 4 初点灯日、改修など  | 明治2年1月1日  |
| 5 高さ   | 灯台の高さ:地上から構造物頂部19m, 光源位置:水面から灯火56m (地上から16m)  |
| 6 設計・施工・管理   | 設計・施工:<br>・初代→レオンス・ヴェルニーによる設計、フランス技師を中心に施工、レンガ造り。<br>1922(大正11)年に地震により亀裂→取り壊し。<br>・2代目:コンクリート造り、関東大震災により約半年で崩壊。<br>・3代目:現在のもの。コンクリート造り。<br>管理:公益社団法人燈光会 |
| 7 現在稼働中か   | 稼働中 <del>稼働していない</del>  |
| 8 文化財指定など  | なし  |
| 灯台の立地環境に関する事項  |   |
| 9 アクセス   | 観音崎駐車場から徒歩10分程度   |
| 10 標高  | 40m程度 (水面~灯火56m)-(地上~灯火16m)   |
| 11 地盤  | 岩盤 構造物その他(-)  |
| 12 地理的特徴   | 陸続き 埠頭島   |
| 13 地質  | 泥岩及び火山砕屑岩互層   |
| 14 植生  | トベラ、ヒメユズリハ、ヤブニッケイなどの樹木からなる暖地性海岸植物群落(出所:横須賀土木事務所「観音崎公園 整備・管理計画」)   |
| 15 生態系   | 急峻な丘陵斜面が海岸に迫り平坦地が少なく、岩礁地帯上には温暖性海岸植物群落が発達。海岸線は岩礁や砂浜など変化に富む。(出所:横須賀土木事務所「観音崎公園 整備・管理計画」)  |
| 灯台の公開に関する事項  |   |
| 16 解説板   | あり なし   |
| 17 灯台資料館   | あり なし   |
| 18 見学  | 可 不可  |
| 灯台の写真等   |   |
|  |   |
| 人々とのつながり   |   |
| 灯台周辺域の施設、制度等   |   |
| 19 地域指定  |   |
| 20 博物館、資料館など   | 観音崎灯台管理事務所建物内に灯台資料展示室あり。周辺に県立観音崎公園パークセンター、横須賀美術館、観音崎自然博物館。  |
| 21 トイレ   | 駐車場、灯台に続くアクセス路(徒歩のみ)にあり。  |
| 22 観光施設  | 周辺一帯が県立観音崎公園、横須賀美術館、民間ホテル、BBQやグランピング施設あり。   |
| 人々による利用  |   |
| 23 釣り  | 走水漁港(観音崎の北約2km)周辺で遊漁船等あり。   |
| 24 周辺海域での漁業  | 走水漁港(観音崎の北約2km)。  |
| 25 自然観察  | 観音崎自然博物館で自然観察イベント等あり。   |
| 26 観光資源としての扱い  | 横須賀観光協会でも観光スポットとして紹介されるなど、観光資源として認識されている。調査当日も観光客とみられる来訪者も確認された。  |
| 27 愛好会など   | 灯台そのものではないが、観音像復元プロジェクトが令和1年に立ち上がっている。  |
| 28 その他   |   |
| 文献   |   |
| ・「観音崎の灯台」(社団法人 観音崎自然博物館保存会)  |   |
| 気づいたこと、特筆すべきこと   |   |
| 航路標識としての役割に加えて、日本初の洋式灯台としての歴史文化的な側面、及び観光的な側面の両方から価値認識され活用され続けていることが伺える。灯台の入館料として300円/人を徴収しているが、そのことによって観光利用と保全の循環がひとつ成り立っている。商圏の近さや周辺の観光関連施設の集積も「資源」としてあり続けている一つの背景だろうか。 |   |

参考資料 調査票記入例(観音崎灯台)